

## インドネシア・ジャカルタで洪水調査を行いました(2014/3/11-14)

テーマ：ジャカルタ洪水調査  
場所：インドネシア・ジャカルタ

インドネシアの首都ジャカルタでは熱帯モンスーンにともなう豪雨により、1996年、2002年、2007年、2013年に大規模な洪水氾濫が生じました。災害科学国際研究所は、2013年1月の洪水に対して現地調査を実施し、ジャカルタ洪水は、『地球温暖化』、『地盤沈下』、『上流域の都市化』、『都市排水能力の不足』、『土砂・ゴミの水路への堆積による洪水疎通能力の低下』など様々な要因が複雑に絡みあい生じていることを明らかにしました。

しかしながら、2014年1月に再度洪水が発生し、15名以上の死者が生じました。本洪水に対し、災害リスク研究部門の呉 修一 助教および Dr. Abudul Muhari は、情報収集をはかり現地行政組織や大学などとお互いの情報や知見を共有することを目的とし、現地洪水調査を3月11日～14日に実施しました。

現地では、インドネシア国家防災庁、インドネシア気象庁 (BMKG)、JICA ジャカルタ事務所などを訪問し、我々の最近の研究成果を報告するとともに、様々な意見交換を通じた情報の収集・共有を行いました。また、2014年1月洪水をもたらした雨量や、水位、浸水範囲等のデータを取得することが出来ました。これらデータおよび現地収集情報より、今回の洪水は、長期間(1か月程度)にわたり比較的強い雨が継続したため、チリウン川上流等で洪水氾濫が生じた事がわかり、2013年1月洪水とはメカニズムが異なる事が明らかになりました。

現地調査では、2014年1月の浸水箇所を視察するとともに、各種水工施設や河道への土砂・ゴミ等の堆積状況等を確認しました。また、2013年の洪水の堤防決壊箇所等も視察し洪水からの復旧状況の確認を行いました。その他にもプルート排水池の周辺整備状況や1月の洪水以前に斜面崩落により生じた堤防破壊現場(洪水前に応急復旧済み)の視察を行いました。JICA やインドネシア国家防災庁との打ち合わせでは、ジャカルタの今後の洪水対策案に関して説明を受けるとともに、我々の研究成果に対して様々なご意見を頂きました。更に、バンドン工科大学の Muhammad Farid 博士と打ち合わせを行い、今後の解析の進め方等に関して議論を行いました。

今後も、当研究所ではジャカルタ洪水に関する調査・解析を進め、ジャカルタ洪水を軽減するための様々な情報を国内外に発信していく予定です。



2013年1月洪水で破堤した堤防の復旧状況



新設された堤防を視察するバンドン工科大の Farid 博士



マンガレイ水門（チリウン川）（ゴミの堆積無し）



カレット水門（西排水路）（ゴミの堆積無し）



斜面崩落による堤防破壊  
（洪水前に発生・応急復旧，カレット水門上流）



ブレイット排水池周辺に整備された都市公園の様子

文責：呉 修一（災害リスク研究部門）